



だから避難訓練は
月1回以上！



野田村の方(役場の小野寺さん)にも
興津小でお話していただきました





個別訓練＝動画カルテ まとめ1

1. 想定を「うそ」にしてしまうための〈変化〉に向けた具体的な手がかりを獲得できる
(「津波による犠牲者×人」という想定情報を変化させるためのエンジンとなる)
2. 避難する人自身が「主役」となった減災活動
3. 第三者(研究者)と当事者(地域住民)の
インターフェース＝対話の場・ツール

個別訓練＝動画カルテ まとめ2

4. 自然科学(地震・津波＝敵を知る)と、人間科学(人＝己を知る)のインターフェース
 - 敵:揺れの強さ、継続時間、津波の高さ、早さ、方向
 - 己:どこに、どこを通過して、どのように、だれと一緒に、何分かかって?
5. 情報(想定)→対策・訓練→情報(想定)→対策・訓練→...のサイクルあつての情報であり訓練であるべき

個別訓練＝動画カルテ まとめ3

- 避難の「主役」は、地域の方々。「主役」が舞台の中心にいてほしい
- 避難に要する時間、経路や場所、要援護者への対応、逆に応援してもらえる方など、自分でチェック(避難成否の判断に不可欠のパラメータの一つ)
- 主役を脇役も応援する(津波予測もちろん重要なパラメータの一つ)
- こうして得られた大事な情報をもとに、みんなが(住民も、学校も、行政も、専門家も)協力して、地域独自の避難方法・施設の改善をはかる

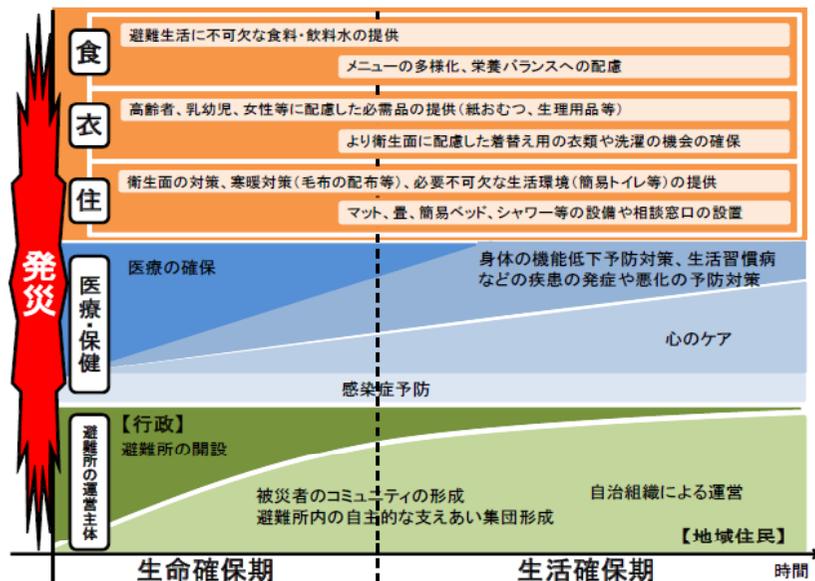
お話のまとめ

- みんなは大きな災害(「東日本大震災」)を経験しました。
- 神戸の子どもたちも大きな災害(「阪神・淡路大震災」)を経験しました
- その後、大人になった神戸の子どもたちのことを知ってもらいました
 - 自分たちの活動をビデオに
 - 防災・消防の仕事について女の子
- 高知の子どもたちは20XX年に起きると予想されている「南海トラフ地震」にそなえてがんばっています
 - 地図(防災マップ)のおかげで保育所が高台に
 - 自分たちの避難訓練だけでなく、お年寄りの訓練もお手伝いしていました
- みなさんも自分の経験を少しずつ生かしていきましょう

避難所

- 「避難所における良好な生活環境の確保に関する検討会」(内閣府)最終報告に記載された3つのポイント
 1. 被災者の生活の場として発災直後からのフェーズに応じた良好な環境を
 2. 地域支援の拠点としての機能
 3. 被災者の多様性に十分配慮

<避難所におけるフェーズごとに重要となる事項>



印象に残っているご意見(順不同)

- 「こんな非常時にわがままだって言われる」(食物アレルギー)
- 「今、災害があったら、私は避難所に行きません。行きません」(視覚障害をおもちの方)
- 「避難所に来ていない方々(こそ)が、問題なんです」
- 「避難されている方にとっては、そこはお家です、自宅の居間の話だと思って議論すべきだし、ふだんから想像してみるべき」
- 「自立、生活再建へ向けた支援は重要。しかし、『はい、今日から、生活確保期ですよ(自立へ向けた努力ですよ)』とは、いかない」
- 「震災関連死=公式統計でも1600人あまり、最初の1ヶ月で半数、3ヶ月で8割。避難所におられた頃だ」
- 「3つのシームレス」(①時間=日常と異常のギャップ、②部門=縦割り、③地域=阪神・淡路と同じことの反復)